

第2回 中央市学校再編に向けた地域検討会議(三村小学校) 議事録(概要)

1 日 時 令和 6 年9月3日(火) 19:00~20:50

2 場 所 中央市立玉穂総合会館

3 出席者

・委員(24 名)

・教育委員会(教育長・教育委員(4 名)・事務局(6 名))

欠席者

・委員(7 名)

1. 開会

2. 市教育委員会あいさつ(教育長)

3. 会長あいさつ

4. 議事

①市教育委員会説明

事務局から以下の点について説明を行った。

・中央市 HP より抜粋(資料1)

・人口推移推計値(資料2)

・学校再編について(資料3)

・玉穂地区にお住まいで未就学児の保護者、三村小学校・玉穂南小学校の児童の保護者へのアンケートとなります(資料4-1)

・アンケート集計結果について(資料4-2)

②意見交換

会長(進行) ・説明についてのご質問等はあるか。

委員 ・アンケート集計結果を見ると非常に統合が良いと集計的にも多いということだが、どうしてこういう結果が出たのか。

教育長 ・第 1 回目の会議時に、これから学校に就学する児童の保護者の方々の考えはどうか、在校生の方々の考えどうか、アンケートをとってもらいたいというご意見があったのでアンケートを実施した。方向性が固まれば、具体的なアンケートをするが、公平の立場で、今の段階で、メリット・デメリットそれぞれの説明や、今までの経過についてはホームページを見て確認してほしいとアンケート概要の中で説明をした。その内容を確認してもらい、今の段階で、皆さんどうお考えですかということを聞いた結果になっている。ですから、統合を進めているわけでもなく、または改修を進めているものでもなく、あくまでも公平の立場で簡単に説明をし、考えを伺った中での結果と認識している。

委員 ・豊富小学校は、何年前か改修した。こういった議論もあったのか。例えば、豊富小学校を統合するとか、何かそういった意見もあったのか。

教育長 ・豊富小学校の大規模改修は、その当時こういった議論はなかったと認識して

いる。中央市の各学校の改修は長寿命化で行うことは決定されているが、豊富小学校の大規模改修をした後、教育環境が大きく変わってきている。その中で子供たちの学校環境も変わってきている。これからさらに変わっていく中で、私たちもその情報を皆さんに提供して、これで本当にこの計画でいいのか、あるいは統合を考えていくのがいいのか、それをお伺いしているという状況である。

委員 ・資料 2 の将来推計を見てもらうと、豊富小学校は、2040 年には 90 名となる。そして、豊富小を改修した時点が 125 人。三村小学校の 2040 年を見ると統合する必要性はないと思うが。豊富小学校の子供の人数を見ていくとそんなふうに思うがいかがか。

教育長 ・統合する必要があるか、ないかというのは、皆さんの意見を聞いて考えていくべき。この数字だけ見て、当然、統合の必要があるとか、まだ統合の必要はないということとは言えないと思う。ただ、豊富小学校なりに、小規模校におけるいろんな弊害が出てきている。ただ、私たちはそういったものを少しでも減らして、子供たちが快適に学べる環境は作っていきたいという中で、統合というのも 1 つの提案と理解いただきたい。

委員 ・このアンケートを見ると、人口減少の歯止めが効かないという意見があったが、今中央市は、人口を増やすためのまちづくりをしている。人口を増やすということを進めたらどうか。人口が減るということを出すから、こういったアンケート結果が出てくる。人口減少ありきで統合するということはいかななものか。

教育長 ・当然人口が増えるために様々な政策をしている。土地利用計画も見直しなど人口増加対策をしている。学校のあり方、教育環境については子供たちが減るだけではない。教育環境が変わってきている中、今の施設でできるかどうか。当然できるように教育委員会もしていくわけだが限界はある。そういった中で、児童数が減るだけではなくて、変化する教育環境という視点で私たちも説明をしている。ただ、人口減少というのは、これは国がすでに示しているもので、こういったデータが出ていることは避けては通れない。ただ、人口とか児童数だけではなくて、新しい学校でも対応できるように、GIGA スクールであったりとか、多様性の学び方であったりとか、インクルーシブ、そういった教育のあり方自体がもう根底から変わってきている。例えば、私が小学校のときに使った教室の広さと、今の教室の広さは変わっていないが、机は、パソコンを置いたり資料を置いたり、とても対応できないはず。こういった細かいところでも、そういった教育環境の対応について議論いただければありがたい。

委員 ・例えば、統合する場合、中心はここです。通学距離もちょうどここが真ん中、統合するのであれば三村小学校を建て替える。統合の場所もそういうふうに決まってくる。例えば、そうではなくて、三村小学校と玉穂南小学校の間のどこか新しく学校を建てようと思っても莫大な金額がかかる。もし統合ということでこの会の話が進むのであれば、新しい土地を買って、体育館や校舎を作ったなど、建設費がいくらかかるかの説明もお願いしたい。

委員 ・資料 2 の児童数を、社人研データの推移を利用して出したというが、児童数を出すときにどのように出しているのか。

事務局

・社人研の計算方法の概要は、5年ごとに行われている国勢調査の情報をもとに、社会増や自然増の増減、各それぞれの地域での出生率等を過去の数字から類推して算定をしている。基本的には社人研のデータを使うと、今の状況と、過去の状況を用いるので、このデータは将来的な学校の再編とか統合とかを考慮されていない推計値になる。

今回提示した推計値は、それぞれ0歳から14歳という分類で社人研の方は、市全体の数字が提示されているのでそれに合わせた。令和6年度の田富・玉穂・豊富地区の0歳から14歳の人数を計算し、5年ごとの社人研の推計値に対して各地区で按分し、それぞれの年度ごとの各地区の人数を求めた。さらに、各学校の児童数を求めるため、各地区に存在する学校ごとの児童数により按分した。

委員

・アンケートは、統合して新たな学校を建設するか、2校それぞれの既存校舎を改修して使用し続ける特徴、制限事項といった前提で実施されたかと思う。統合や改修して続けることのそれぞれのメリット・デメリットはどちらも同じぐらいの量があって、おそらく、今住んでいる地域とか、お子さんの年齢とかで、ちょうどその時期に当たるのではないかと、家から遠くなるのではないかと、個人的な価値感、メリット・デメリットもそこに加わった結果だと思う。アンケートとして、こういった形で実施し、こういった結果が出たのは成果だとは思っている。実際問題、どちらか選択をしたとき、維持ができるのか、実現できるのか。確実に実現ができて、かつ長期的にそれが継続できるのかというところが、一番大きな判断になると思う。その表現が双方一文で、かつ、維持しやすいということと、困難と予想されるということが唯一、それぞれ相反する内容になっていて、実際、お金の計算とかされているとは思いますが、実現がどちらも可能かつ維持もどちらも可能なのですか。

教育長

・アンケートについては、前回の会議の中で、あくまでも現状の中で、在校生の保護者、これから就学する児童の保護者の方たちの意向を確認したいというところであったので、あえて細かいデータは提示しない中で、意向調査的に実施をした。当然、より具体的な話になってきたときにも、皆さんから意見を伺わなければならないので、その時は、より細かい質問になっていくと思う。改修か新築か、建築費、維持管理の話が出ているが、当然、どちらかの方向に進めばその範囲内でできる費用の中で取り組んでいくので、長寿命化であれば長寿命化対策を進める。あるいは、新築統合した場合はそれに見合った新しい学校を、いい学校を作ろうと思えば、単価も高くなるが、財政というものもあるので、計画はこれから立てていく。まずはその前に、どの方向性でいくのか、そこを皆さんから伺いたいということが今回の検討会議の趣旨だと理解いただきたい。

委員

・方向性を検討するにあたっては、特に財政状況とかはそこまで気にしないでいい。結局議論しても、財政的に無理だとなってしまうのかと思っているが、それがいいのであれば。

教育長

・あくまでも玉穂地区の関係者の皆さんがこういった意向なのかを挙げていただき、それを最終判断する。例えば財政的に難しいということで、市長の方でこれはできないという形になるかもしれない。今の段階は、そういったところ

を抜きとして、今後どのように考えていくのかということを伺いたい。

委員

・文科省が掲げている、新しい学校のあり方とか、モデル校とかガイドラインみたいなものが、多少でもない、新しい学校にしましょうという決断はできない。だから、改修が多かったというふうに私は思う。決して統合に反対ということではなくて、情報が少ない。予算以外にも、一番重要な子供にとって何が時代性に合った学校づくりに必要なのかということを、我々も分からない。せめて青写真でなくてもいいので、文科省はこういう学校づくりを今後しようしているとか、中央市ではある程度検討はしているとか、そういう情報がないと、今回この会議で最終的に結論を出せと言われても、このアンケートと同じような、結果になるのではないかと。つまり改修か統合かよく分からないということになりかねない。

委員

・学校現場の者として、子供たちのことを想って話をいただいていることに嬉しく思う。ゆとり教育と言われていた時代の後、全国、そして世界の調査、学力調査で、日本の学力が低くなった。そのあと詰め込み教育に一気に変わった。そういうことが起こったので、不登校が増加し、コロナになって大変なことも起きて、社会が複雑化すればするほど不安もある。明らかに社会が成熟していることによって、厳しい時代に入っている。それが今言われている教育の現場であり、それらに対応することが我々教員は非常に難しくなっている。子供たちもいつ来るかわからなかったり、休み始めてしまったり、またその子供たちに対応したり。また、様々な障がいの子供たちも同じクラスの中で授業して、インクルーシブ教育で同じ教育をやろうなど、そうした瞬間にいろんなことが学校の中で起きている。今度個別最適な学びといって、子供たち一人一人が学び方を自分で考えながら個別に学習、そして、協働的な学びといって、皆でグループになりながら、自ら自分がどんな位置にいるか確認しながら、人から物を教わったり、自分の立ち位置を考えながら勉強する。このような授業作りを先生たちは常に要求され、今まで一方的に教えることが多かったのが、そうした仕組みを作っていかなければならない。今まで言われていた以上に教員が疲弊しているとか、ブラックであるとか、その授業終わった後の教材作りがすごく大変だとか、そうしたことで、学校の先生になり手がいないという状況である。人口は、一時的に少し増えたとしても、抜本的に日本の人口が増えるわけではないので、そんなに数は変わらないというのが、今の現状。35人学級という国の基準で、1クラスにしかならないので、三村小学校も玉穂南小学校も単級学級という可能性が15年後には出ている。だんだん学年が後に行けば行くほど人数が少なくなるから、当然、35人学級がどんどん増えていく。26人以上35人が一番厄介で、1クラスにしかならない。36人の通常クラスならば2つに分かれて、18人と18人できめ細かい教育ができる。35人一遍に指導することはとんでもない大変なことだと私は思っている。実際に単級は玉穂南小にはもうすでにあって、35人でやっている。ルールで2つに分かれない。たとえ統合したとしても、決して大規模校になるわけではなくて、今のレベルと同じぐらいの児童数にしかならない。せめて2クラス作れる規模になった方が、子供たちは、他のクラスの子と分かれてうまく対応できたり、他のクラスの先生がお休みのときには一緒に学習できたり、幅広い計画的な学習ができるのではないかと。その難しさが教育現場では出てきているように思う。

会長

・学校現場で日々悩んでいる先生のお話を聞いて、やはり現状で改修していく方向というのは私も少し無理ではないか。統合して、1 学年 2 学級か 3 学級規模の学校にしていけないといろいろな困難がある。三村小学校の校長の時に一番悩んだのは、校長室や職員室から子供が活動している姿が見られない。玉穂南小のときは、校長室から校庭がざっと見られたので、何かトラブルがあったときにすぐ飛んでいける。三村小はそれができない。大規模改修をして、いくら耐震とか、GIGA スクールに近いようなことができたとしても、子供と教師が向き合って共に活動することが非常に難しい。あともう 1 つは、単学級になると当然教員数は配置が減る。校内の対外的な仕事を職員が分担してやるのだが、1 人がいくつも主任をしなければならない。そうするとますます子供との触れ合いが非常に困難になってしまう。やはり統合して適正規模にして、先生方の負担を減らして、それから子供と触れ合う交流する、そういう学校をぜひ、統合して新しい学校を作る形で実現していただきたいと強く願っている。

教育長

・先ほどの質問の中で、もう一度確認をしたいが、もし仮に教育委員会が統合を進めるのであれば、そういう意見の資料は用意する。先ほど、こちらの学校関係者からの質問では、どういった学校なのか青写真、あるいは財政規模も当然示させてもらう。ただ、今の市の計画は長寿命化しかない。統合に向けた検討というのは、教育長が職員に命令することができない。これを皆さんが、いや、長寿命化でなく、これも検討して欲しいという話になれば話が違ふ。謝らなければいけないのは、この長寿命化計画を立てるときに、皆さんにきちんと説明をすべきだったと私は思っている。当然パブリックコメントで説明をさせてもらっているが、今ある計画は、長寿命化しかないの、統合とか、新しい学校を作るとかは、全く市の計画にはない話となるので、その業務に対して説明は教育委員会からはできないことになる。曖昧な話かもしれないが、皆さんや会長さんからの意向をもとに、これを検討しようという話になれば、初めてそこで業務として成り立ってくる。その中で検討したら、やはり新築は、なかなかそんなにお金出してくれない、新しい学校を建ててもしょうがないという話になれば、また長寿命化になるかもしれないが、ぜひその点のご理解いただきたい。なぜ、こんな話をしているかというと、今、教育の環境が変わってきている。私たちもそれを説明しないまま、長寿命化を進めるのは、なぜ、教育委員会はきちんと情報提供してくれなかったのかという話になるので、今こういった会を設けている。繰り返すが、統合を進めているわけでもなく、今こういう状況が変わってきているが皆さんはどのように考えますか、または、もっとこういう形で進めて欲しいということであれば、それに向かって検討していくということになるので、細かい資料とか、あるいは具体的な話は今できないということのご理解いただきたい。

委員

・事務局で資料 1 でホームページを作ってもらったのは大変ありがたいと思う。1 つ足りないのは、「よくある質問」で、「なぜ統合を進めているのですか」で、教育長の最初の話を書いたらいかがでしょう。それから、それ以外によくある質問らしいものをピックアップして、このページに載せたら、もう少し先ほどのような誤解が解けると思う。加えて言うと、文科省がある程度モデルとし

て示しているのは、適正規模の学級ということを示しているのです、それが文科省の示している今後の学校のあり方なのだろうというように読み取ったらいいと思う。

委員

・この前の会議のときも先生方から出た、雨漏りがどこから出ているかわからない、配管がむき出しの小学校。言われて行ってみれば職員室からどこも見えない。廊下は暗い。これを長寿命化計画で教育長が言った、今の時代、パソコンもある、机を広くしなきゃいけない。教室の枠は決まっているというので、長寿命化計画でこれが全部クリアできると思って改修という話の方向があるということでもいいのか。できないものができると言ってアンケートをとってもしようがないので、できないのだったらできないと言わないと、子供たちが一番迷惑かかると思う。

教育長

・長寿命化で今の学びの環境が提供できるのかどうかというご質問だが、当然それができるようにしていかなければいけない。例えば田富小学校が今長寿命化をしているが、増築をしたり、いろんなことが対応できるようなスペースを作ったりしている。大きさや幅は変えられないが、何らかの形で子供たちにきちんとした教育環境を提供できるように考えていかなければならない。長寿命化計画を作ったのは、コロナの前で、デジタル教育と言っている前の時代の計画なので難しい部分はあるが、それに合う形で教育環境を提供していかなければいけないということは使命であるので何らの工夫をして対応していきたい。

委員

・何らかの形で、それはクリアするということなのだが、教員の方々の働き方改革の時代なので、働きやすい環境の校舎を用意してのいくのが一番だと思うので願います。

会長

・教育長の話では、今ある校舎の柱はそのまま使わなければならない。これだと、相当考えて増築をするなど、相当練らないと新しい教育に対応できる教育、あるいは子供と豊かに触れ合える学校を作るのが厳しいと思う。それだったら、この会議として願えることができ、それで教育委員会の方が動いてくれるのであれば、私はぜひ統合して新設校で全く新しい GIGA スクールを作ってほしいと強くお願いしたいと思うが、三村小の校長先生や教頭先生はいかがか。

委員

・学校の施設を想っていろいろご心配してもらい大変ありがたい。骨格は変えられないということ、今のスペースだとなかなか苦しいのは正直なところである。正直、使い勝手が大変良くない。学年を越えていろいろな児童と混ざり合いながら、広いスペースで相談をしながら、ICT を使うなどと考えた場合には、正直大変使いづらい。もし、一緒になった場合に人数が増えて、600 人の児童になったとしても学年 100 人。ちょうど 25 人学級4クラスで 100 人では驚かないというところではある。担任からすると、自分のクラスの人数で処理するので、クラスの人数の増減によってクラスの見方が変わってくるし業務も変わってくる。もし、本当に上手く人口増があって 600 人の学校で子供がワイワイしながらみんなで混ざり合って、楽しく学校に通えて、ちょっと今苦しいなという子供の居場所があって、今勉強遅れたという子供も学べる場所があって、地域の方々が、コミュニティスクールの中で困っている子供たちを見

てもらうなど、みんなで子供たちを見る学校はどうなるのか、という夢を持ちながら話を伺っている。大変ありがたいと思う。

委員

・三村小の建物の老朽化を目の当たりにして、非常に子供たちに申し訳ないような気持ちがいっぱい、業者を呼んで、直せる部分と、どうにもならないような部分がかなりある。衛生的にもというような部分もある中で、果たして、今現状の校舎のままでの改修で、100%満たされないにしても、90%以上、子供たちが楽しく明るく学べる校舎というものができるのかということには少し難しいと思っている。校舎を見るとかなり無駄なスペースが多い。そういった無駄なスペースを残しながら、改修、もしくは増築するというのは、お金をかけるにしても、あまりメリットというものは少ない気がする。

会長

・三村小学校で統合、新築という形で思っている、玉穂南小学校の方では望まないというような形になってしまうと、絶対それはできないことになる。何とか玉穂南小の保護者の方、PTAの関係の方々、職員の皆さんとも、統合して新しい GIGA スクールとして優れた学校、子供たちと交流が深められる学校を作っていきたいという方向にぜひ持っていきたいと考える。

委員

・アンケート資料の統合した場合の不安のところで、気になっているが通学距離が長くなるって不安が非常に多いが、長くなる子供は本当に大丈夫なのかというのが、1つ不安がある。また、職員室や校長室から校庭が見えないという話は何とかして欲しいという気がした。学校を減らすと、子供が減る。自然減とは別に、それはもう他の自治体を見てもそうなので、それを許容してでも行うのかは今考えるべきだと思う。正直、中央市の子供がどんどん増えていくとは思っていないが、ただ、学校を減らすことでこの減少がさらに加速する可能性があると思う。

委員

・まず、統合ということになった場合には、その時期と、それからどこに作るかが大きな焦点になると思う。在籍する児童それから保護者、学校関係者、三者がみんな満足する、良かったなというような状況でないと。そうなったときに、結局通学距離、通学時間は大きな問題だと思う。在籍している保護者はいろいろ分かるわけだけが、未就学児の保護者にとしてみると、なかなか具体的な絵が出てこない気がする。ある意味、統合を急がなければいけないのかどうかというのは、もう少し考える必要があると思う。いろいろな要件があるが、よくその辺は皆さんで広く意見を集約しながら、考えてそんなに急がなければならない案件かどうかというのは難しいところもあるけれど、考えていって欲しいと思う。もう1つ、中学のことを考えた場合に今は三村・玉穂南・豊富3校から来ている。それが将来的に長く見た場合に少し心配なところもある。

教育長

・統合の時期、どこへ建てるか、そういった問題については、皆さんが統合の方向に向かっていくということになれば、玉穂南小学校の代表者の方、三村小学校の代表者の方に集まってもらい話を進めていくという形となる。決して、教育委員会の方でここに建てなさいとか、こうしなさいとかというような類の話ではなく、それぞれで協議をしてもらいたいと考えている。通学距離の話は、これだけの暑さで熱中症の危険がある中、子供たちは厳しいところもある。こういった対応も含めてスクールバスというのは、今後どこかの段階で導入しないと、子供の命を守ることができない。スクールバスとかは、統合とは別の話と

して考えていかなければならないという部分がある。統合で子供が減るという話もあるが、もっと逆の発想で例えばこんな学校は山梨にない、みんなが視察に来る、学校に行きたい、学校で勉強したい、そんな学校を作ったらどうかと。そういった学校づくりというのが必要なかと思っている。また、統合の時期は、三村小学校の施設の老朽化は耐えられない状況であり、もっと事前に対応すべきだったと思っている。そのため、早い段階で対応していきたいと思っている。また 1 つの小学校から 1 つの中学校という話では、三村小学校と玉穂南小学校の統合を契機に、これから市内の小中学校の再編というものも考えていく必要があると思っている。

委員

・この会議の第 1 の目的は、改修または統合、どちらかで子供たちにどのような良い教育環境を提供できるかということだと思う。予算的なことは任せて、この場では、子供ファーストで考えるのが大事だと思う。人口の推移見ていくと、当面、改修か統合どちらでも対応できるという感じはする。ただそれが 10 年 15 年経ったときのことを考えれば、今どちらをするかというのは当然と決まってくると思う。

会長

・それでは、2 校統合して新設校を作って、子供たちが明るく楽しく通える学校を作りたいということで、玉穂南小学校の方と、三村小学校との代表みたいな方で、話し合う場を作って、玉穂南小の方も、その方向で教育委員会にお願いしようという形で一緒に持っていけるといいかと感じている。代表者同士で話し合って、それを教育委員会の方に、検討会議の考えとして要望するような形に持っていきたいと考えるがいかがか。

委員

・(拍手多数)

会長

・他になければ閉会とする。

6. 閉会